

火山噴火のしくみと噴火災害

火山は、寒い冬でも人々で賑わう温泉をはじめとして、摩周湖などの美しい景観をもつ地形の形成、地熱や鉱物等の資源を生み出す、といった多くの恩恵をもたらしてくれています。一方で、噴火によって災害を引き起こすという危険な側面もあります。

火山の噴火は、炭酸飲料の入ったペットボトルのふたを開けたときに起こる現象に似ています。火山活動の原動力となるマグマは、主に高温で溶けた岩石でできていますが、水や炭酸ガスなどの気体になりやすい成分（揮発性成分）も含んでいます。揮発性成分は地下深くでは、まわりの岩石から押される圧力によって、マグマに溶け込んだままになっています。しかし、マグマが地表に向かって上昇すると圧力が下がり、揮発性成分が一気に泡になります。このようにマグマが泡立ちながら勢いよく噴出するのが、よくイメージされるような噴火のしくみです。

マグマに含まれる成分や噴出の仕方に違いがあるため、噴火に伴って発生する火山現象には、溶岩流、噴石や火山灰、火山ガスなど様々なものがあります。特に大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流は、避難までの時間的猶予がほとんどなく、防災対策の重要度が高い火山現象とされています。

このような災害から身を守るために、気象庁では、生命に危険を及ぼす火山現象の発生や拡大が予測される場合に、「噴火警報」を発表します。噴火警報には警戒が必要な範囲、そして自治体の避難計画を含めて検討し導入した「噴火警戒レベル」を付してお知らせします。その他、実際に火山が噴火した場合にお知らせする「噴火速報」等、状況に応じて火山に関する情報を発表しています。これらの情報は、気象庁ホームページやテレビ、ラジオ、携帯電話、防災行政無線などで確認できます。火山災害は発生してから被害を与えるまでの時間が非常に短いため、ハザードマップを見て危険な場所や避難場所を確認しておく、防災情報をチェックするなどの事前の対策が必要です。火山の近くに出かける際に、ぜひ参考にしてください。

問い合わせ先 網走地方気象台
(電話：0152-43-4349)



網走地方気象台ホームページ



火山-監視と防災情報-についてはこちら

